

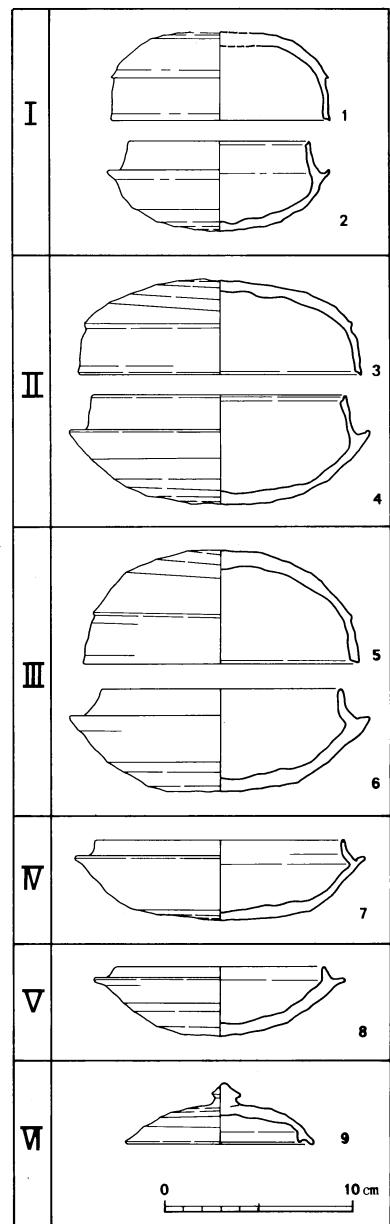
あてはまり、IVはTK 217型式に相当する。

したがって、本古墳群は5世紀末ないし6世紀初頭にB—1号墳が築造され、6世紀前葉にはC尾根支群が一斉に造墓を開始し、直後には早くも造墓を停止して、C—2号墳のみ追葬を行い、7世紀前葉にまで及んでいたことが窺える。

多利向山古墳群は非常に短期間に古墳が造営、終息していることが判明し、時代を追って継続的に築造された古墳群ではないことがわかる。

第2節 立室方形プラン横穴式石室について

多利向山古墳群C—2号墳の埋葬施設である横穴式石室は、玄室の平面形が方形を呈し、ハ字状に開く短い羨道を持つ、いわゆる初期横穴式石室であるが、管見によれば、このタイプの石室は兵庫県下でも類例が少ない（第10表）。その分布をみると、丹波には本墳を含め2基、播磨では5基存在するのみである。また方形プランの横穴式石室と並び注目されるのがT字形横穴式石室であり、県下では朝来郡和田山町の奥山1号墳、多紀郡篠山町の稻荷山古墳と姫路市飾東町春日野（飾東）1号墳、神戸市垂水区毘沙門1号墳の4例が認められる。玄室方形プランおよびT字形石室は兵庫県下では、播磨・丹波・但馬にのみ分布しているが、但馬の初期横穴式石室は主として養父郡養父町觀音塚古墳にみられるよう、いわゆる豎穴系横口式石室の形態をとっている。播磨に所在する玄室方形プラン横穴式石室の分布をさらに細かくみると、丁第3次1号墳は・山頂古墳および山戸0—5号墳姫路市勝原区丁・山戸に所在し、西宮山古墳は竜野市竜野町日山、同じく竜野市揖西町長尾にはタイ山1号墳、小丸山古墳は揖保郡御津町中島、前山1号墳は揖保郡揖保川町金剛山、最も北の姥塚古墳は揖保郡新宮町馬立に所在する。これらの



第66図 多利向山古墳群出土
須恵器型式図

（7）（8）
（9）（10）
（11）

古墳はいずれも律令制下の揖保郡内に分布していることが注目されよう（第67図）。しかも、これらの古墳のうち、遺存状態の良好な石室はすべて穹窿式となっている。

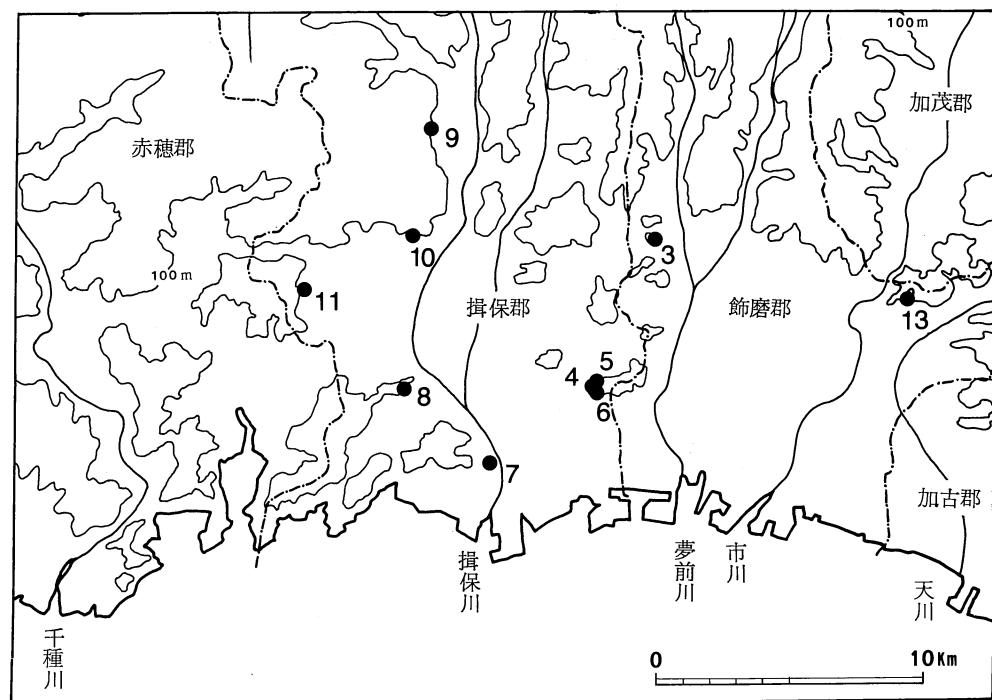
次に、この形態の石室を持つ古墳の時期であるが、須恵器が出土している古墳のうち最も古いものは田辺編年のMT15型式であり、多利向山C—2号墳をはじめ、至山古墳、丁第3次1号墳の3基である。次のTK10型式に含まれるものは西宮山古墳とタイ山古墳である。小山丸古墳および姥塚古墳出土の装飾付須恵器については、6世紀中葉ないし後葉と考えられる。すなわち、兵庫県下の玄室方形プラン横穴式石室は、6世紀前葉に出現し、6世紀中葉ないし後葉には築造されなくなったことがわかる。

玄室方形プランの横穴式石室については、白石太一郎氏が直接中国南朝の博局墓に系譜を求めている。⁽¹⁵⁾一方、水野正好氏は、高句麗の諸墳が楽浪・帶方の中国系博局墓から導かれるという通説に立って、必ずしも中国が故地であるとは限らないとされている。水野氏はさらに、近江国滋賀郡に多く所在する正方形平面・穹窿頂立面玄室の石室について、主として高句麗・百濟に故地を求めており、その被葬者は楽浪・帶方遺民の居住する高句麗・百濟からの帰化系氏族としている。⁽¹⁶⁾さて、水野氏は、滋賀郡大友郷から分岐して滋賀郡古市郷に居住していた大友但波氏族の故地について、和爾氏との関係から、兵庫県多紀郡篠山町に所在する雲部車塚古墳付近に求めており、近接した南小田中の稻荷山古墳が幅長プラン穹窿頂持送り立面の横穴式石室であることに注目している。⁽¹⁷⁾

播磨の方形平面穹窿式石室の分布は、さきにみたように旧揖保郡内に集中している。そのうち、丁第3次1号墳・山頂墳、山戸0—5号墳が所在するあたりには太田の地名があり、森浩一氏も指摘しているように、『播磨国風土記』に記載のある、朝鮮からの最後の移住地である播磨国大田に比定される。風土記の伝承をそのまま信用するわけにはゆかないが、この地域一帯が朝鮮からの渡来人との関係があったために伝承が残ったものと思われる。したがって、この地域に集中してみられる方形平面穹窿式石室が、この伝承とは無関係であるとは言い難い。

一方、多利向山C—2号墳が存在する一帯は春日部の名称が残っており、『和名抄』記載の春部郷に比定されているが、それを裏付けるように、春日町棚原に所在する山垣遺跡から「春部里長」と記載された奈良時代の木簡が出土している。⁽²⁰⁾春部を領有・管理したと考えられる春部氏は和邇氏の一氏族であり、水野氏によれば、和邇氏は渡来系氏族を受け入れ、統轄していたらしい。⁽²¹⁾したがって、渡来系氏族とつながりの深い和邇氏と一族の春部氏とC—2号墳の玄室方形プラン横穴式石室とは不可分の関係ではないと考えられる。

以上述べてきたように、多利向山C—2号墳について、玄室方形プランの横穴式石室を持つこと、春部氏と和邇氏との関係から、古墳を営んだ集団は渡来系氏族と何らかの関係を持っていたとする可能性は否定しきれないものと思われる。



第67図 播磨地域の玄室方形プランおよびT字形横穴式石室墳分布図

番号	古墳名	所在地	墳形	石室形	玄室長(m)	玄室幅(m)	玄門幅(m)
1	多利向山C-2号墳	氷上郡春日町多利	円	方	2.25	2.25	0.72
2	至山古墳	氷上郡山南町井原	円	方(2.00)	2.00	0.75	
3	実法寺3号墳	姫路市飾西町実法寺	円	方	2.95	2.50	
4	丁第3次調査1号墳	姫路市勝原区丁	円	方	2.35	2.18	0.56
5	丁山頂古墳	姫路市勝原区丁	円	方	2.93	3.40	1.11
6	山戸0-5号墳	姫路市勝原区山戸	円	方	2.50	2.10	
7	小丸山古墳	揖保郡御津町中島	前方後円?	方	2.80	3.00	1.20
8	前山1号墳	揖保郡揖保川町金剛山	円	方	2.30	2.20	1.23
9	姥塚古墳	揖保郡新宮町馬立	円	方	3.60	3.05	1.20
10	西宮山古墳	龍野市龍野町日山	前方後円	方	3.80	3.40	1.40
11	タイ山1号墳	龍野市揖西町長尾	円	(方)(2.55)	(2.47)	—	
12	稻荷山古墳	多紀郡篠山町南小田中	前方後円?	T	2.50	3.66	0.95
13	春日野1号墳	姫路市飾東町春日野	円	T	1.72	2.66	1.13
14	奥山1号墳	朝来郡和田山町		T			
15	毘沙門1号墳	神戸市垂水区舞子坂	円?	T	1.70	4.00	1.00

第10表 兵庫県下の玄室方形プランおよびT字形横穴式石室墳地名表